



私の最初の海外旅行は、高校2年の昭和26年12月からの約1カ月のオーストラリア旅行であった。単なる観光旅行ではなく、YMCA主催の第2回国際年長少年キャン

プという国際交流を目的とした使節団への参加であった。ちなみにオーストラリアは、商社マンであった父にとっても、大正から昭和にかけて数年間、赴任した思い出の地でもあり、自分のことのように、快く送り出してくれたことを今でもはつきりと覚えて

いる。トは当時、外務大臣を兼務していた吉田茂首相の名前が入った、まだ3000番台のものであった。最初の写真(写真上)は、使節団参加メンバー

壮行会時、三笠宮崇仁殿下にお越しいただいた時に撮ったものである。今から思うと、それだけ大変な使節団であったことを痛感する。

プロペラ機で、フィリピン経由で何と48時間かけて、やっとの思いでシドニーへ到着。長旅の疲れと緊張感が漂っているのが二枚目の写真(写真右)である。右から三番目が、この使節団の引率者であった斎藤惣一先生で、先生は戦後の初代日本YMCA同盟総主事であり、昭和23年5月に設置された「引揚援護庁」の長官を務められた方でもあった。

戦後復興が進行中の日本とは異なり、初めて見たミュージカル映画『ショーボート』、アイスクリームのこの世のものとは思えない美味しさ、遊園地で味わったジェットコースターの楽しさなど、触れるものすべてに対して、サプライズの連続だった。

社会人となり、海外へ数多く訪れたが、この初めての旅行を上回る感動を得ることはない。昨年、仕事でオーストラリアを久しぶりに訪れた際、約半世紀前、青春時代に受けた大きな感動が私の中で蘇ってきた。また、ゆつくりと時間を気にせず、思い出の地に足を踏み入れたいと思っている。



(写真上) 使節団参加メンバー壮行会にて。前列右端・三笠宮崇仁殿下、後列右端・筆者。
(写真右) シドニー到着時、飛行機にて。右から三番目・引率の斎藤惣一先生、右端・筆者。



サプライズの連続だった 最初の海外旅行(昭和26年)

嶋 雅二

J-オイルミルズ 取締役会長

私の思い出館
私 思 写
の い 真
出 館

